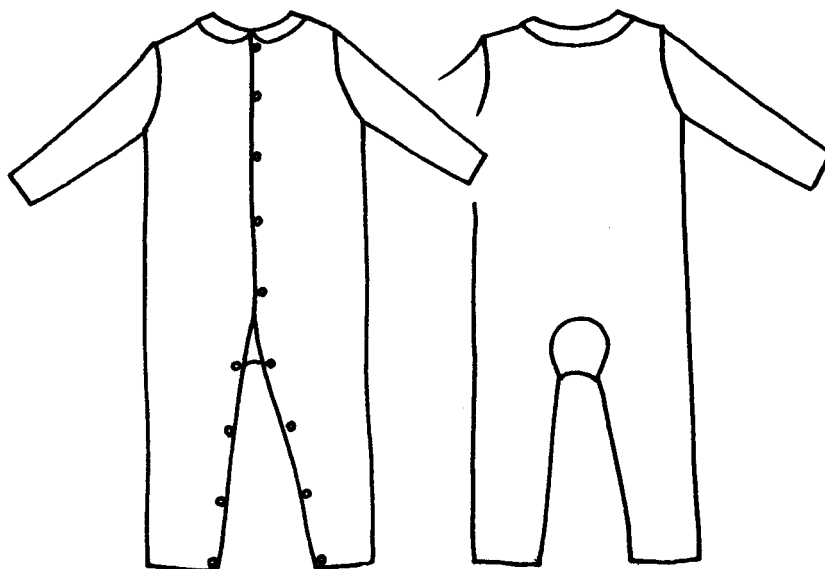


Recherche 00008 カバーオール仕様書



サイズ	70	80	90
総丈（後中心）	55	61	70
バスト	49	52	55
袖丈	23	27	30

ニット用（※衿・見返しに布帛使用）

パターンパーツ数 7

～付属品～

伸び止めテープ（ウーリースピンテープ）

接着芯

留め具

オリジナルパターン・仕様書の著作権・販売権は Recherche が所有しています。
いかなる理由であっても、オリジナルパターン・仕様書の無断転用・複写・流用及び転
売はご遠慮ください。

■ 用語

CF(センターフロント).....前中心

CB(センターバック).....後中心

SL(ショルダーライン).....肩線

AH(アームホール).....袖ぐり

SNP(ショルダーネックポイント).....肩線の衿側

空ロック.....布端処理等に用いる、縫い合わせをしないロック

コバステッチ.....1~2 mmの端ミシン

■ 裁断前に必ず地直しを行ってください。

■ シースリーブ(腕にフィットした袖)ですので、ご希望の長さにカットすることも可能です。同様に股下もカットが可能です。

■ 生地of テンションは中~高がおすすめです。

■ 二本針四本糸ロックミシン使用を想定しています。それ以外の場合は着用し辛くなったり、糸切れの原因になりますのでご注意ください。

----- 作り方 -----

裁断

地の目線を確認し、生地of 方向や伸びに注意しながら裁断します。

ノッチ(合印)を入れます

裁断時、わ になった部分にもノッチを入れます。(BC、衿、股マチ)

前身頃と前あき見返しof 「衿付け止まり」には切り込みを入れません。

※チャコペン等でしるしを付けておきます。

※ノッチ(合印)とは、縫い代に 0.3~0.5 cm of 切り込みを入れることです。

※各所縫い合わせの時はこのノッチどうしを合わせるようします。

伸び止めテープ・接着芯を貼ります

「前身頃 SL の裏の縫い代部分」に伸び止めテープを貼ります。(ロックでの縫い合わせ時にウーリースピンテープを縫い込む場合は省略)

「衿の表地の裏側全面」「前見返し」「後股見返し」に接着芯を貼ります。

※ 接着芯を貼ると生地が縮むので、最初に生地を大きめに粗裁ちしてから接着芯を貼り、その後パターンに合わせ裁断します。

衿ぐり用バイヤステープを用意する

※6 mmと細めのバイヤステープ処理をするため、縫い外しにくいバイヤステープを作ります。



バイヤス(生地地の目に対して斜め)に18 mm巾で布を裁ちます。



外表になるよう半分にアイロンで折ります。

※衿ぐり寸法より少し長めに用意しておきます。

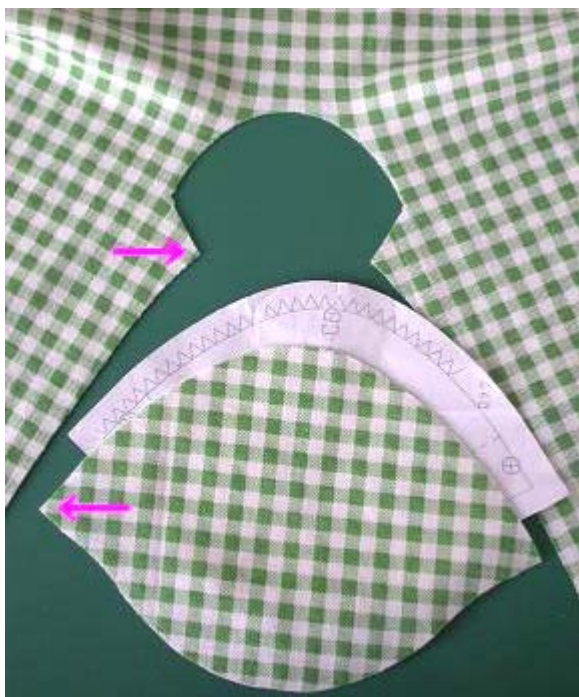
空ロックをかけます

3 mm切り落としながら 5 mm巾の空ロックを「前あき見返しの片側(パターンを確認)」
「後股見返しの片側(パターンを確認)」「左右の袖口」「裾」にかけます。

ロックで縫い合わせます



「前身頃」と「後身頃」を中表に重ね、5 mm切り落としながら 5 mm巾ロックを「SL(肩線)」にかけます。



「後身頃」と「股マチ」を中表に重ね、5mm切り落としながら5mm巾ロックをかけます。

※ 股マチの上下を間違えないようにパターンを確認します

※ 画像の矢印同士が合います。

※ パターンに「ロック」と書かれた方を後身頃と縫い合わせます。



縫い合わせ後、裏から見たところ



「身頃」と「袖」を中表に重ね、5 mm切り落としながら5 mm巾ロックをかけます。

※ SL(肩線)の縫い代は後身頃側に倒します。



「袖口」を出来上がり線で折り、1.5 cm巾ステッチをかけます。

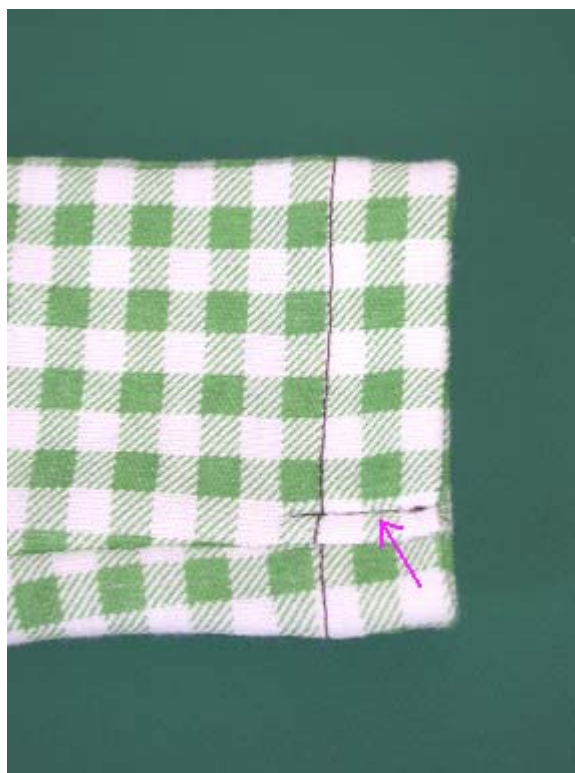
「前後の身頃」を中表に重ね、身頃脇～袖口まで5 mm切り落としながら5 mm巾ロックをかけます。

※ 次ページ左画像参照

※ 袖ぐりの縫い代は身頃側に倒します。

「袖口の縫い代」を後側に倒しステッチで押さえます。

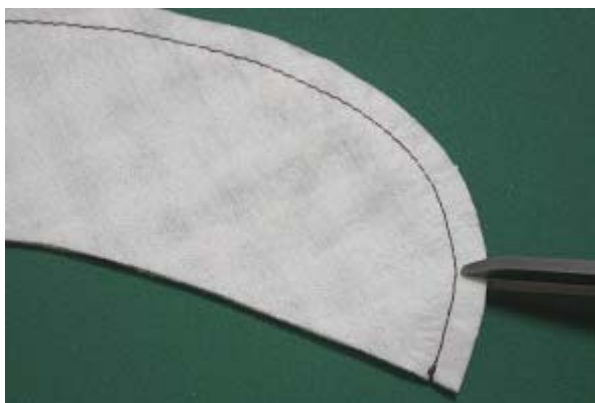
※次ページ右画像参照



衿を作ります



「衿の表地」と「衿の裏地」を**中表**に重ね、出来上がり線(縫い代 1 cm)を直線ミシンで縫い合わせます。



縫い代を **5 mm**に**カット**し、切り込みを入れます。

※カーブのきつところは多めに入れます。



表に反しアイロンをかけます。

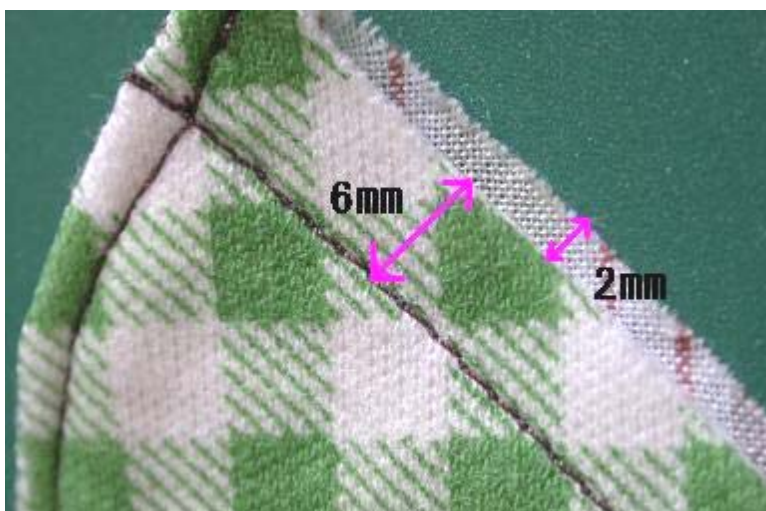


「衿の外周」にコバステッチをかけます。



「衿の内周」に押さえミシンをかけます。

※下の詳細説明・画像を参照～重要～



※ 「衿の表地」の縫い代の端から 6 mm の位置に押さえミシンをかけます。

※ この時、「衿の裏地」が縫い代の端側に 2 mm 程度はみ出すように縫います。



※ 僅かに膨らみます。

※ こうすることで着用時の衿の跳ね返りを防ぐ事ができます。



「はみ出した衿の裏地」をカットします。

前身頃に前あき見返しを縫いつけます



「前身頃」と「前あき見返し」を**中表**に重ね、衿付け止まり～前あき部分～裾まで出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。

※画像は衿付け止まり周辺



※画像は裾口周
辺



縫い代に切り込みを入れます。

※カーブがきついところは多めに入れます。

後身頃に後股見返しを縫いつけます

前あき部分と同様に「後身頃の裾～股マチ～裾」と「後股見返し」を**中表**に重ね、直線ミシンで縫い合わせます。

※ 先ほど後身頃と股マチをロックで縫い合わせた縫い代は、股マチ側に倒します。

縫い代に切り込みを入れます。

身頃に襟を付けます



衿ぐりの「前あき部分の縫い代の角」を斜めに切り落とします。
裾側も同様に切り落とします。

「衿」を「前あき見返し」と「身頃」の間に挟み込み、縫い代を合わせます。
※衿は衿付け止まりの位置まで入っています。

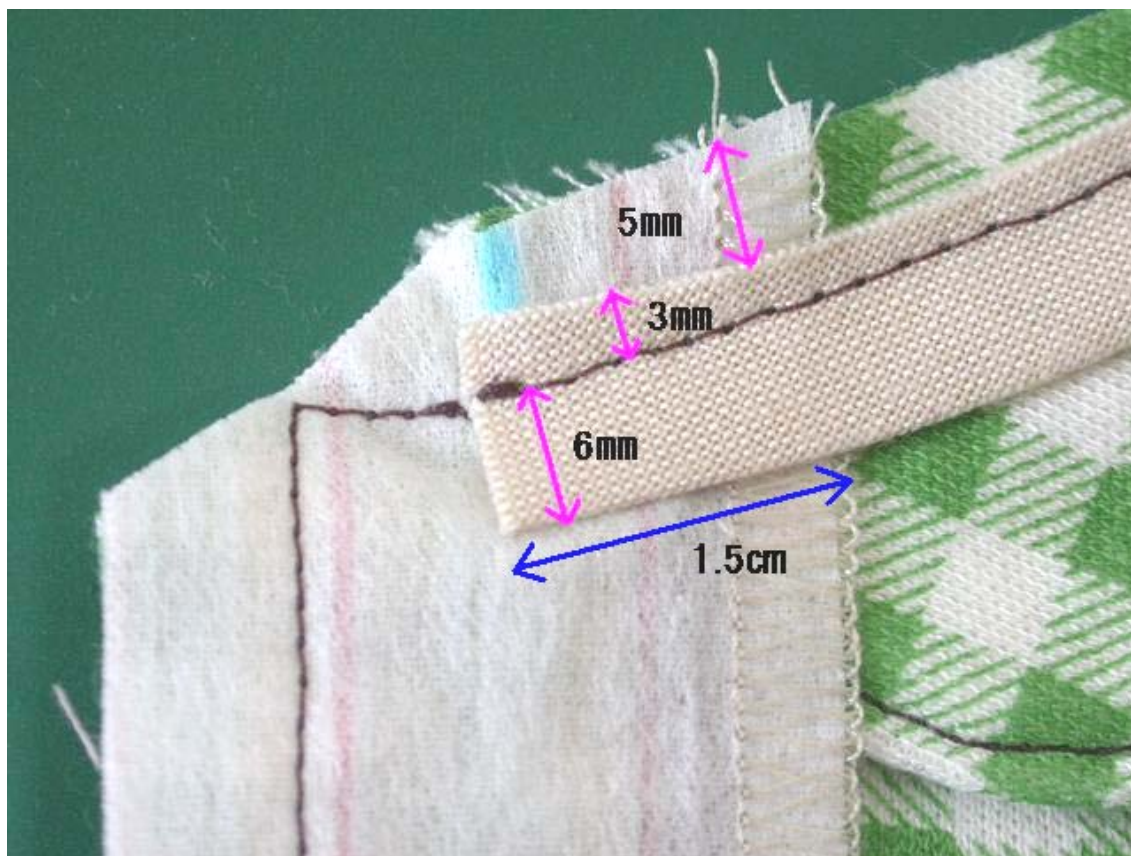


その上にバイヤステープを重ねます。

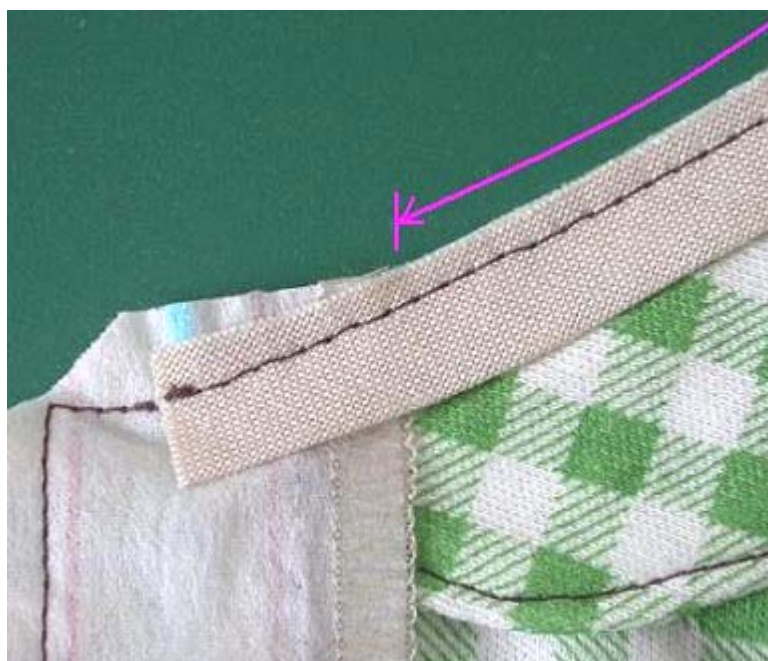
※衿・身頃縫い代端より5 mm控えます。
※見返しに1.5 cm重ねます。

バイヤステープの端から3 mmの位置を直線ミシンで縫い合わせます。
ノッチを合わせながら反対側の身頃まで縫い進めます。

※次ページ画像参照～重要～



- ※ バイヤステープの縫い代(3 mm側)が少ないと完成後にほどけやすくなります。
- ※ バイヤステープの わ の方(6 mm側)が少ないと縫い代を包めなくなります。



「衿と身頃の縫い代」をバイヤステープに揃えて切り落とします。(5 mm)

※見返しに隠れる部分はできるだけ縫い代を残します。



「前あき見返し」を表に反し、アイロンをかけます。

※ ピンセットを使うと綺麗に角が出ます。

同様に「後身頃と後股見返し」の裾の縫い代の角も切り落とした後、表に反しアイロンをかけます。

衿を立て、バイヤステープを身頃側に倒し、衿ぐりの縫い代を包みながらコバステッチをかけます。





衿を立て、「前あき見返し」の衿ぐり～裾まで2 cm巾でステッチをかけます。



「裾」を出来上がり線で折り、1.5 cm巾の位置にステッチをかけます。

前あきに留め具を付けます

お好みでボタンやスナップ等を取り付けてください。

----- 完成 -----